

八王子市立宮上小学校 学校経営報告書

学校教育目標

みなぎる力 やさしい心 考える知恵 見わたす世界

本年度の重点目標「考える知恵」

この学校教育目標の実現にあたり以下の 3 点を「目指す学校像」とする。

右図の様に、①基盤→②中核→③理念と三層構造となっている。

① 安全・安心で信頼される学校【学校の基盤】

② 学び合い、知徳体を高め合う学校【学校の中核】

③ 生きがいをもつ学校【学校の理念】

【目指す学校像の構造】

生きがいをもつ学校
【③学校の理念】

学び合い、知徳体を高め合う学校
【②学校の中核】

安全・安心で信頼される学校
【①学校の基盤】

1 「安全・安心で信頼される学校」について

以下は、11 月（2 回目）に実施した保護者アンケートの結果である。

（数値は%）

【1 あてはまる 2 ややあてあまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない 5 わからない】		1	2	3	4	5
1	学校の経営方針を知っている。	93	0	0	7	0
2	学校が力を入れているコミュニティスクールの取組について知っている。	95	0	0	5	0
3	本校が宮上中学校と一緒にいる取組について知っている。	80	0	0	20	0
4	学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。	99	0	0	1	0
5	学校は、子どもが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動することができるような教育を進めている。	65	25	3	1	6
6	学校は、いじめの未然防止への取組、いじめの早期発見、早期対応など、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	60	30	4	1	6
7	子どもの学級は、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。	81	17	1	0	1
8	学校は、授業において説明、板書、発問、視聴覚機器（ICT 機器）の活用などの工夫に取り組んでいる。	67	28	3	0	2
9	学校の、子どもの学習活動に対する評価は、適切・公平である。	75	19	1	1	4
10	学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。	72	23	1	1	3

11	学校は、子どもの将来の進路や職業について適切に指導している。	65	26	2	1	6
12	学校は、学習環境の整備や清掃活動に取り組んでいる。	72	22	2	0	4
13	学校は、保護者に対して、適切に情報提供している。	80	17	1	1	1
14	学校は、特別支援教育を充実させ、個に応じた支援の工夫を行っている。	74	12	2	1	11
15	家庭では、子どもと学校のことをよくしている。	55	36	7	1	1
16	家庭では、子どもの生活習慣の定着に努力している。	51	43	5	1	0

全 16 項目中 1 項目 (3) を除く 15 項目において「1 (あてはまる) 又は 2 (ややあてはまる)」の肯定的評価が併せて 85% 以上であった。このことから、保護者の皆様の学校に対する安心感・信頼感は概ね高いと考える。特に、「4 学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。」の項目で「1 あてはまる」と回答した方が 99%、「13 学校は、保護者に対して、適切に情報提供している」の項目で「1 あてはまる」と回答した方が 80%、「2 ややあてはまる」と回答した方が 17%、合わせると 97% が肯定的評価をしてくださったことは安心、信頼につながると考える。

一方、「3 本校が宮上中学校と一緒にやる取組について知っている。」は 20%、約五分の一の方が「4 あてはまらない」と回答している。この取組については、そのことを知っているかどうかを質問していることから「あてはまらない」つまり「知らない」という保護者の方が多いと考えられる。それでも、「1 あてはまる」が 80% と 8 割を超えていることから、関わりのある学年とそうでない学年で認知に差が生まれているのではないかと考える。小中一貫の取組の発信を強化していきたい。

また、「11 学校は、子どもの将来の進路や職業について適切に指導している。」の項目は、特に高学年においてキャリア教育を積極的に行い（企業や様々な職業の方々と多く招き、話を聞くだけでなく職業体験を行ったり、学校の近くにある企業に見学に行ったりした）、またそのことを保護者の皆様に発信したことが、高評価につながったと考える。

また、「6 学校は、いじめの未然防止への取組、いじめの早期発見、早期対応など、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。」については、肯定的評価が約 90% であった。本校では全教職員が「いじめは絶対に許さない」「絶対に守り抜く」という姿勢で日々の教育活動にあたっていることはもちろん、毎月 1 回全ての子どもにいじめアンケートを実施し、またいじめ対策委員会（毎週木曜日定例会実施）において情報共有や対応策の検討を行ってきた。また、児童や保護者から相談があった場合にはその都度臨時のいじめ対策委員会を開き、即時対応をしている。それら、いじめ対策委員会の取組や教員のいじめ研修の実施について、その都度、学校ホームページにて、情報を発信しており、保護者の方々の理解は増してきていると考える。いじめ対応は子どもたちが安心して学校に通うために特に重要なことであるので、今後も教職員一丸となりしっかりと進めていく。

自由記述欄には、次のような言葉をいただいた。

「楽しく学校に通っています。」「日頃より、丁寧な指導と過ごしやすい環境を作ってくださる先生方、あたたかな先生方に見守られているおかげで、生意気になりがちな年齢の息子が、素直で優しい気持ちを持つ子供に育っており、感謝しています。」「先生が子どもの思いをくみ取ってくださり、また思いを寄せて下さるおかげで、子どもも自分のことを良く分かってくださっているという安心感の中で学校生活をしているように感じます。」「先生方がいつも落ち着いた雰囲気の中で接して下さり、子どものやりたい事を否定せず、話を聞いてどうしたら実現できるかをアドバイスして、見守ってくださっていると感じます。」「子どもの特性を理解して下さり配慮していただき感謝しております。」

このような保護者の方々からの指摘は、我々教職員にとって有難く励みになるものである。今後ともより一層充実した教育活動を展開していく。

一方、次のような指摘をいただいた。

「給食白衣の柔軟剤の匂いがきついです。苦手な匂いと感じる子や化学物質過敏症の子もいるかもしれません。美味しく給食が食べられないと思います。」「一人一台端末を使って子供がこっそりゲームをしています。ゲームをさせたくないで困っています。」「先生の言葉遣いが気になることがある。」「先生方、子供たち双方へのサポート体制をもう少し厚くしていただきたいと思う。」「ここ数年、学校から子供たちのためという思いが伝わってこない。働き方改革という言葉をよく聞き、子供たちが置いていかれている状態になっている。」

これらのご意見も含め、改善できることは見直しを行い、より良い学校づくりに生かしていく。

2 「学び合い、知徳体を高め合う学校」について

(1) 保護者アンケートより

先の保護者アンケートの項目 5～9 が「学び合い、知徳体を高め合う学校」に特に関わる項目であると考え、全ての項目において 90%以上、肯定的な評価をいただいた。概ね高い評価をいただいたと考えるが、今後も校内研究や OJT 研修会はもとより、市の公立小学校教育研究会をはじめとする学校外の研修会にも積極的に参加し、教師がその力量を高めていくために学び続ける姿勢をもち続けることが大切であると考え。

(2) 教員による内部評価より

教員による内部評価において、「学び合い、知徳体を高め合う学校」に特に関わる項目について、「とてもできた、できた」と回答した割合は、それぞれ次のとおりであった。

- ・教育目標の重点である「考える知恵」の育成が図られている……………100%
- ・児童の学習意欲を引き出し、基礎基本の定着とともに学力の向上が図られている……………100%
- ・落ち着いた学習環境づくりができて……………95%
- ・児童のつまずきに合わせた指導ができて……………91%
- ・児童の様々な課題に応じた具体的な手立てが講じられている……………100%
- ・校内研究「主体的に取り組む児童の育成」の成果は日常の教育実践の場に生かされている…100%
- ・道徳授業の指導を通して、道徳的实践力の育成が図られている……………86%

全体的に肯定的評価が高く、100%の項目が昨年度0から4項目に増えた。まだ道徳的实践力の育成という面で課題意識をもつ教員が多いがこれも10%以上向上している。道徳の授業だけでなく、別様を意識させ意図的に教育活動全体を通して、道徳的实践力を育むことができるよう改善を図ってきた成果が現れてきた。

(3) 八王子市学力定着度調査より

12月に4年生以上で実施された八王子市学力定着度調査結果における正答率を市平均と比較すると以下の通りであった。

	国語 (%)			算数 (%)		
	市平均	本校平均	差	市平均	本校平均	差
4年生	68.2	65.9	-2.3	66.0	67.9	+1.9
5年生	66.0	66.5	+0.5	62.9	66.0	+3.1
6年生	68.4	73.7	+5.3	62.7	71.8	+9.1

おおむね正答率は市平均と同等、もしくは少し上回る程度であった。学校全体としては児童の学力について一定の成果は得られているが、個々の児童について見ていくと、正答率が50%以下の児童が国語、算数共に3学年合計で10名いることを考えると全ての児童に基礎学力を確実に

に定着させていくために、個々の教員が授業改善を図り続けることはもとより、小中合同の家庭学習習慣、ベーシックドリルを使った放課後補習教室、チャレンジスタディ、算数補習授業、1学年担任による5・6年算数のT2補助の取組を計画的に行い、丁寧な個別指導を充実させていく。

（４）校内研究より

今年度の校内研究は「主体的に学習する児童の育成 ～まとめの工夫を通して～」の主題のもと取り組んできた。12月に児童に行った意識調査の結果（肯定的評価の割合）は次の通りであった。

- ①学習にすすんで取り組んでいる……………97%
- ②最後まで学習に取り組んでいる……………93%
- ③問題解決のために、いろいろな方法で試している……………88%
- ④学習の見通しをもって取り組んでいる……………86%
- ⑤その日の課題にそって学習をしている……………88%
- ⑥学習したことを生活や他の学習に生かしている……………86%
- ⑦できたこと・分かったことを振り返っていますか……………79%
- ⑧学習後、もっとやりたいと思ったことがあるか……………76%
- ⑨学習したことを同じ教科で使ったことがあるか……………88%
- ⑩学習したことを他の教科で使ったことがあるか……………83%
- ⑪学習したことを生活の中で使ったことがあるか……………87%

①から⑤の項目は、児童が主体的に学習に取り組む意識を尋ねているものであるが、肯定的評価が高く、これまで複数年かけて主体的に学習に取り組む児童の育成を目指し、研究を続けてきた成果が現れている。これまでの一斉授業のスタイルから学習課題を明確にし、その解決を目指すため見通しをもって取り組ませ、学び合いながら探究する授業への脱皮が図られており、教員の授業力の向上が着実に進んでいると考える。

一方、特に⑦、⑧の項目の肯定的評価は70%台であった。今年度は、まとめの工夫を中心に据えて研究を進めてきたが、個々の児童の「何が分かるようになったのか」「何ができるようになったのか」をいかに教師が把握し、児童に自覚させることについては、改善の余地がある。そこでまずは教師が単元全体を通して、何を学ばせ、どのような力を付けるのかを明確にすることが重要である。そして学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、また更に深い学びにつながるよう児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるのか検討していく必要がある。今後も主体的、対話的で深い学びにつながるよう授業力の改善を図っていく。

（５）その他

普段の学習活動はもとより、体験的な学習や外部講師を利用した活動を実施してきた。

3年生の社会科の学習では、地域の安全について学ぶ単元で、実際に南大沢署の警察官を講師に授業をしていただいた。仕事内容や警察官の装備などについて、話だけでなく、実物を見たり触れたりすることで、警察署の働きについて、実感をもって理解することができただけでなく、もっと調べてみたいと、興味や関心を広げることができた。

4年生の総合的な学習では、八王子市笑顔と学びのプロジェクトに参加し、「八王子車人形」の鑑賞や体験活動に取り組んだ。「八王子車人形」の歴史や八王子とのつながり、車人形の構造などについて、プロの方より話を伺うことができた。また実際に車人形を操作する体験やプロの方の演技を鑑賞し、車人形のすばらしさを知ることができただけでなく、この「八王子車人形」体験を通して、八王子の歴史や文化について興味や関心をもつ大きなきっかけとなった。

「学校2020レガシー」の取組として、全校でボッチャに取り組んだ。体育的行事委員会の企画により、兄弟学年毎にボッチャ週間を設けて取り組んだが、劇的な場面、盛り上がる場面が多数生まれるなど児童も楽しく、そして意欲的に取り組むことができた。また、特別支援学級及び特別支援教室においても学習にボッチャを取り入れることにより、児童のコミュニケーション力等の向上につながっている。

キャリア教育は、学校に多くの企業・職業人の方々をお招きして6年生がお話を聞いたり職業

体験をしたりする機会を設けた。また各学年の社会科見学はもとより、学校の近くにある企業に5年生6年生が実際に足を運び、見学・体験をさせていただく機会も設けた。これらの体験的な学習は、子どもたちが自分の将来を考えるための貴重な機会となったと考える。

漢字検定について、本校を会場として実施した。学校運営協議会主催事業・小中一貫教育事業ということで、学校運営協議会の委員が中心となって運営を行い、保護者・本校教職員の力も借りて実施することができた。今年度は1月23日（金）に実施したが、本校からは67名の児童が受検し、さらに宮上中学校の生徒27名が受検した。宮上中学校とは小中一貫教育で様々な取組を連携して行っているが、この漢字検定もその取組の一つとして今後も継続していく。

3 「生きがいをうむ学校」について

「生きがい」という言葉の意味を辞書で調べると「生きることの喜び・張り合い」と書かれている。つまり周りの誰かから判断されるものではなく、それぞれ個々の人間が「励み」や「心の支え」になるものということになる。では学校における子どもたちの「生きがい」とは、何なのかを考えたとき、それは、授業における一人一人の子どもたちの「できた!」「分かった!」という自信や学校生活における「役に立っている」「必要とされている」という実感により生まれるものではないかと考えた。

そこで今年度は、「生きがい」の評価指標（目標）を設定し、宮上小が子供たちにとって「生きがいを生む学校」を目指し取り組んできた。

まず一人一人の子供たちの「できた」「分かった」という自信を育むために、①授業アンケート満足度90%以上②八王子ミニマム正答率70%以下0人③学力定着度調査正答率50%以下0人④単元末テスト正答率60%以下0人と4つの目標を設定し、授業改善や補習学習等の取組を行ってきた。

今年度の評価指標（目標）の結果は以下の通りである。

①授業アンケート（児童）満足度92%

②八王子ミニマム正答率70%以下0人

③学力定着度調査正答率50%以下 国語10人算数10人（4年5年6年合計）

④単元末テスト正答率 60%以下 全学年平均 国語10%程度 算数13%程度

子供たちの「できた」「分かった」という自信を育むということは、裏を返せば「できない」「分からない」児童をつくらないこととして評価指標（目標）を設定した。①は2月に全校児童に向けて「授業が分かりやすいか」の質問で授業アンケートを行った。「当てはまる」「だいたい当てはまる」の肯定的評価は92%であった。①と②の項目については目標を達成することができたが、③と④の項目については目標を達成することはできなかった。しかし学校全体で目標をもって取り組んだことで、個々の児童の課題について把握・共有することができた。既習事項の定着の課題、基礎・基本の理解不足にとどまらず、特別支援を要する児童、外国籍の児童、不登校、学習習慣の課題など、一人一人の状況に合った対応が必要であると痛感している。次年度も学校全体として、授業満足度を高め、基礎的・基本的事項の定着を図りつつ、より個に応じた指導ができるよう補習教室等の取組の充実を図っていく。

更に「自分は役に立っている」「必要とされている」という実感をもたせるために、生活アンケート満足度90%以上と目標を設定した。

2月に授業アンケートに併せて学校生活アンケートも実施した。より児童に分かりやすいように質問項目を1「学校で活躍できている」と2「係や当番、委員会でみんなのために活動している」とした。1の項目の肯定的評価は70%、2の項目の肯定的評価は84%であった。1と2の肯定的評価を平均すると77%となった。

そこで今年度の生活アンケート満足度の結果は、77%とした。

アンケートの結果を分析すると「わからない」と答えた児童の割合が、1の項目で16%、2の項目で10%程度おり、何をもって「活躍できている」、「みんなのため」になっているとするのか判断基準が不明確であったことが影響していると思われ、満足度の測り方を次年度検討していく。なお2の項目について高学年は目標とする90%を達成しており、委員会活動やクラブ活

動など学校全体のために中心となって活動することが多く、「みんなのため」と実感できる機会が豊富であったと考える。学校全体としては、目標としていた90%を超えることはできなかったが、日頃から学校生活においてクラブや委員会活動、児童会活動、各クラスの学級活動、たてわり班活動や学校行事をはじめとする活動を行う中で、子供たちが自分たちで話し合い、企画し、考えたことを実現する経験を積み重ねてきた。その中で学校や学年・学級の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする姿や適材適所で自分たちの能力を生かす姿が多くみられた。それらの姿は、まさに「役に立っている」「必要とされている」との実感につながる姿であり、何より笑顔で楽しみながら活動に取り組む子どもたちの様子を見てみると、それはまさに「生きがい」につながっていると考える。しかしながら満足していない児童が数%いる現実を直視し、より良い人間関係や学校生活をつくり、自己の良さを生かす活動の充実に努めていく。

<最後に>

学校経営計画に則して「安全・安心で信頼されること」を基盤とし、「学び合うこと」を中核としながら、子供や教職員にとっての「生きがい」をうむ学校となるよう力を尽くしてまいりました。保護者や地域の皆様、学校運営協議会の助けを得ながら、これからも教職員一同、知恵を出し合い、工夫して教育活動を進めてまいりたいと存じます。

今年度八王子市立宮上小学校のことを大切に思い、惜しみなく力を貸しくださった皆様に心から感謝申し上げます。これまで38年間紡いできた宮上小の伝統を大切にしながらも、より良い学校になるべく、誠心誠意尽くしてまいります。今後とも宮上小学校へのご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。